

本書について

1 掲載内容

平成 17 年度・18 年度を中心に 4 5 事例を掲載しています。

2 取組分類

各事例における主の取組により、本書では 5 つの取組（ 森林・木材とふれあう取組、 木製遊具とふれあう取組、 森林・木材に学ぶ取組、 作って学ぶ取組、 情報の提供等 ）に分類して掲載しています。事例によっては幾つかの取組を含むものもあります。

3 期待できる効果

各事例に、取組主体がどのような効果が期待できると考えているか、次の項目毎に 3 段階（ ）で取組主体が自己評価しています。

「期待できる効果」の詳細は、次のとおりです。

【五感や創造性を高める】

木のおもちゃをはじめとした木製品や森林での体験・遊び等により、手ざわり・におい・音などを感じる“五感”を刺激し、高めるとともに、思い描いたものを自分の力で作り上げていく豊かな創造性を養うことです。

【協調性や社会性を育む】

他人と一緒に遊び、助け合いながら学び、体験を共有することなどを通じて、協調性やコミュニケーション力を高め、社会性を育むことです。

【運動能力の発達を促す】

身体全体を使いながら、森の中や木製遊具等で遊ぶことなどにより、柔軟な身体の発達を促すことです。

【生命と、自分とのつながりに気づく】

森や木に命があること、森の中にもたくさんの命があること、自分がそのつながりの中にいることに気づくことです。

【森や木に関する知識をつける・高める】

座学や野外学習に限らず、森や木に関する適切な知識や経験を蓄積していくことです。

【森や木を通じた地域の活性化を図る】

地域の森や木を活かしたまちづくりや地域づくりにより、地域の活性化を図ることです。

【木の文化や技術を伝える・つくる】

古来より受け継がれてきた「木の文化」や木に関する技術の継承、身近な暮らしに北海道の木を使っていくことによる、北海道ならではの「木の文化」の育成に資することです。

【つくり手・買い手・使い手をつなぐ】

日常では意識しづらい、つくり手（生産者）や買い手（購入者）・使い手（使用者）のつながりについて、情報発信や意見交換、現地見学等により気づき・理解することです。

【その他】

上記以外に想定しうる効果についてです。